

教育班だより

12月号

気仙沼教育事務所HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mskyoz/>

【小・中学校教育の指導の重点】

- 重点1 感性豊かな心とたくましい心身の育成
- 重点2 確かな学力の育成
- 重点3 家庭・地域と連携・協働した
誰一人取り残さない学校づくりの推進

自宅の庭にあるサザンカの赤い花を見ると酷暑、猛暑という言葉は何度も聞いた今年の夏を懐かしく思うとともに、冬将軍の到来も感じます。

本教育事務所では、事務所主管の指定研修も大詰めを迎えており、1月の初任研（2年目）事務所研修③を残すのみとなりました。研修を通して学んだことを少しずつ指導の参考にし、子供の成長に生かしていただきたいと思います。

さて、11月の初任研（1年目）・中堅研合同研修会では、中堅研受講者の先生方が、初任の先生方が持っている課題や悩みにしっかりと寄り添いながら助言をしていたのが印象的でした。さすが先輩教員です。教育改革が進む中、多くの困難にぶつかるとは思いますが、人のつながりを生かし乗り越えてほしいと願っています。

副参事（副班長・指導主事）櫻井 直人

今月の花「サザンカ」



花言葉
「困難に打ち克つ」
「ひたむき」

気仙沼教育事務所専門カウンセラーから

皆さんは、「ルビンの壺」を知っていますか？この絵の黒地に注目すると杯に見えますが、白地に注目すると向かい合う2人の人の顔に見えてきます。このように、同じものでも、注目の仕方で見え方が変わるということは、教育現場でもたくさん出会います。例えば、普段から落ち着きがなく、授業開始10分で教室を飛び出した子供がいたとします。この場面を、「10分“しか”座ってられない」という視点で見れば、この子供は注意や指導の対象になるかもしれません。しかし、「10分“は(も)”座っていた」という視点で見れば、この子供なりの頑張りや工夫を評価してほめる対象になり、ほめられた子供は、座ることをより意識するかもしれません。“困った子供”と見るか、“困っている子供”と見るか。大人が柔軟な捉え方で、子供の困りに寄り添い、成長を支えていきたいものです。

気仙沼教育事務所専門カウンセラー（公認心理師・臨床心理士）滝沢 晋也

気仙沼教育事務所では、2名の専門カウンセラーが、年間70回、火曜と金曜に勤務しております。児童生徒や保護者だけでなく、教職員の皆様からの相談も受けております。気になる子供や保護者への支援の仕方や関わり方等について、スクールカウンセラーと同様に御活用いただければと思います。



令和7年度宮城県検証改善委員会報告書

<令和7年度テーマ>

「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けて



「子供も先生も、学びの主人公に」

令和7年11月
宮城県教育委員会

令和7年度検証改善委員会報告書の活用を！

「子供も先生も、学びの主人公に」をテーマに、今年度の報告書が11月28日（金）に公表されました。

本報告書は、今年度の全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、国語、算数・数学、理科におけるつまずきの傾向と、すぐに使える授業改善のアイデアを具体的に提案しています。また、教科指導に限らず、児童生徒の「自己肯定感」や「主体性」を育むための生徒指導の実践例や、教職員が「チーム」として協働し課題解決に当たる組織づくりのヒントも満載です。

日々の教材研究や校内研修の資料、また次年度の計画作成に向けた振り返りの材料として、二次元コードからデータをダウンロードし、先生方同士の対話のきっかけや、協働的な授業づくりに御活用ください。



□検証改善委員会 - 宮城県公式ウェブサイト

<https://www.pref.miyagi.jp/site/sokyos/kensyokaizen.html>

11/11（火） 初任者研修（1年目）・中堅教諭等資質向上研修 合同研修会

11月11日（火）に初任者研修（1年目）と中堅教諭等資質向上研修の合同研修会が開催されました。

今回は、小学校と中学校の先生方が、それぞれ南三陸町立戸倉小学校と気仙沼市立面瀬中学校の会場に分かれ、小学校では、中堅研の代表授業者である戸倉小学校・金野拓也先生による3年生算数の授業を、中学校では、同じく代表授業者である面瀬中学校・及川英貴先生による2年生外国語の授業を参観しました。

「研究協議」では、司会を務めた中堅研の先生方が話し合いをリードする中、児童生徒の具体的な姿をもとにした、活発な意見交換がなされました。

また、「情報交換」では、「授業づくりで悩んでいること～こんな授業を目指したい～」というテーマで、初任者が授業づくりに関する課題や悩みを相談し、それに対して、中堅研の先生方がこれまでの経験をもとに適切なアドバイスを行う様子が見られました。

参加者アンケートからは、今後の実践に向けた多くの収穫があったことがうかがえます。

〈初任研の先生〉※一部抜粋、要約

- ・「数学的な見方・考え方」を言葉だけでなく、図や数直線など様々な方法で可視化することで、児童が何を学んだのかが明確になることを学んだ。そのためにも板書の構造化や児童の考えを可視化させることを今後意識していきたい。
- ・中堅研の先生方に、授業や授業外のことについて数多く助言をいただいた。特にICTを使うことが目的にならないように、学びを深めるための一つの手段として、効果的な活用の仕方を試行錯誤していきたい。また、校務を効率的に進められるように、優先順位を付けながら取り組んでいきたい。

〈中堅研の先生〉※一部抜粋、要約

- ・英語の授業では、教材や言葉掛けなどから、授業者が時間をかけて準備してきた様子が伝わってきた。ヒントカードや中間評価の設定など、自分の授業に生かせそうなものばかりだった。研究協議では、どうしたらよりよい授業になるのかという前向きな視点で話し合うことができた。
- ・初任の先生の悩みを聞いて、自分も同じことで悩んでいたことを思い出した。今、自分なりの考えを持てるようになったのも、周りの先生方の力が大きかったと思う。現任校でも今回学んだことを若い先生方に伝え、共に学び合いながら成長する気持ちを忘れないでいきたい。

今回の研修で得た新たな視点や気づきを、各校での教育実践に生かしていくことが期待されます。

事前準備や当日の運営に至るまで御協力をいただいた戸倉小学校、面瀬中学校の先生方に心より感謝申し上げます。



12/5（金） 管内健康づくり研修会

令和7年度「気仙沼管内健康づくり研修会」が12月5日、気仙沼合同庁舎で開催されました。

本研修会は「学校・地域保健連携推進事業」の一環として、学校と地域が連携して児童生徒の健康課題解決に取り組むことを目的としています。

当日は、東北大学大学院助教の鈴木智尚氏が「正しく気にしてみよう、子どもの肥満と食生活」と題して基調講演を行いました。講演では、気仙沼圏域の肥満傾向児が男女ともにほぼ全ての学年で宮城県平均を上回っている現状が示されました。

また、睡眠不足が食欲を増進させ、脂肪分解を妨げることで肥満リスクを高めるメカニズムや、幼少期の生活習慣が将来の疾患リスクにつながる学説などが詳しく解説されました。参加者からは「肥満だけでなく極端な痩身への視点も重要だと学んだ」や「睡眠や朝食の重要性を、ほけんだより等を通じて保護者へ発信したい」といった声が多く寄せられました。本研修は、学校・家庭・地域が一体となり、子供たちの望ましい生活習慣の定着を支援していく重要性を再確認する貴重な機会となりました。

